

法然上人のご法語 第十四 専修念仏せんじゆ

本願の念仏には、独り立ちをせさせて、助すけを差さぬなり。助というは、智慧をも助に差し、持戒をも助に差し、道心をも助に差し、慈悲をも助に差すなり。

善人は善人ながら念仏し、悪人は悪人ながら念仏して、ただ生まれつきのままにて念仏する人を、念仏に助差さぬとは云うなり。

さりながら、悪を改め、善人となりて念仏せん人は、仏みこころの御心かなに適あうべし。

適あわぬもの故に、「とあらん、かからん」と思おもいて、決けつじようしん定心起おこらぬ人は、往生ふじよう不定の人なるべし。

釈尊のお覚り Ⅱ 縁起

あらゆるものごととは、相互依存性によって成り立っている。

「独立した私」は存在しない。「私は…」「私の…」は偽りの感覚である。

「このことに気づけば、苦しみは消える。覚者の目から」覧になった真実。

・四聖諦（四諦）ししよつたい Ⅱ 四つの聖なる真理 Ⅱ 仏教の根本教理

「苦」人生は多くの制約に縛られている。

「集」それらの制約は、われわれ自身の心が生み出したものである。
ある。

「滅」すべての制約を超えることができる。

「道」そのためには、心を正しくたもつべし。

縁起・四聖諦にかなった智慧を持つ、戒律を守る、覚りを強く願う、慈悲の心を育てる、など。…だが自力をもって「滅」に至るのは極めて難しい。

↓ お念仏による往生の道。



じょうどう
成道

釈尊35歳の年、旧暦12月8日と伝えられる。

今年は年明け1月5日にあたる。